

子どもたちに伝統芸能を伝承し、アイデンティティーを育てる

～祭りのもつ力でUターン・Iターン コミュニティーと文化を守る～

雪祭り保存会・新野高原盆踊りの会 音頭取り・新野子ども芸能教室講師

新野祭り愛好会・阿南町立和合小学校 教諭

金田 信夫



はじめに

南信州阿南町新野地区には、国重要無形民俗文化財が二つあります。一つは長野県第1号指定の「新野の雪祭り」。大正時代に国学院大学の民俗学者、折口信夫によってその存在が世に広められ「民俗学を志す者は、一度は見るべき祭り」と評されました。二つ目は、「新野の盆踊り」。民俗学者、柳田國男によって「新野の盆踊りは、日本古来の盆踊りの形を残すものであるから、保存、伝承するように。」と保存会が設立されました。新野の住民にとって、この二つの祭りは室町時代から約600年余り、祖先から受け継いできた宝です。

しかし、ここ新野でも少子高齢化は進み、伝統芸能の継承も困難になっています。この対策として、2002年に地元保存団体が協力し、「新野子ども芸能教室」を立ち上げ、新野地区の伝統芸能、自然、言い伝え、文化財などについて、小3～中3の全員が、月2回年間通して学んでいます。講師は、その分野に詳しい人や、各祭りの保存会員が交代で担当しています。

‘20’21年は、コロナ禍によりどちらの伝統行事も室町時代以来、史上初の中止を余儀なくされました。子どもたちへの伝承も、地域住民のやる気や技術の継承も危機的な状況です。

1 「新野の雪祭り」の子どもたちへの伝承

「新野の雪祭り」に子どもたちは欠かせません。「市子」と呼ばれる役は、行列の先導役、祭りの様々な事始めの役です。小学生の女の子が一生で1回しかできませんでしたが、子どもの減少で、現在では何回でも参加できるようになりました。



さらに希望する子は、神様の「舞」や笛を担う「楽（がく）」と呼ばれる役になります。昔は男子だけでしたが、女子も「楽」で参加できるようになりました。徹夜で朝まで舞い、笛を吹きます。

雪祭りの行列には子ども芸能教室全員の子どもが篠笛で参加します。1月13日午前6時伊豆神社。伊豆神社から諏訪神社に向かう「お下り」出発前に拝礼。責任感と緊張感を感じる瞬間です。



午前6時。氷点下15°Cの中、かじかむ指をこすりながら約3kmの道を1時間30分かけて篠笛を吹きながら歩きます。笛の穴から氷柱ができる時もあります。



厳しくも温かい長老の指導を受けながら、舞の練習をします。本祭りは1月14日21時～15日朝8時まで徹夜です。子どもたちは眠くても朝まで頑張ります。



2 「新野の盆踊り」の子どもたちへの伝承

8月13日～17日未明まで、夜9時～朝6時まで、音頭取りの肉声だけでノンストップで続けられる驚異の3晩徹夜の盆踊りです。2021年、日本各地の念仏踊りとともに「風流踊り」としてユネスコ世界無形文化遺産の候補になりました。

子どもたちは歩き始めた1歳から親の後について盆踊りに参加し、見追う見まねで覚えていきます。



なんと！この3晩は子どもたちも徹夜で踊っていてよいのです。眠い目をこすりつつ、ふらふらになりながら踊る子もいます。周りでは大人が見守っています。



小学校高学年から中学生になると、体力もつき朝まで徹夜で踊れるようになります。揃いの法被は「子ども音頭取り」。21時～深夜0時まで、中学生が櫓に上がり、DJのように踊り全体をリードします。



朝の5時頃。徹夜で踊った同士たち。大人の仲間入り。



高校生～20代へとさらに上達し、保存会にも入って「新野の盆踊り」を支えるパワーとなっていきます。



3 大切なものを守る幸福を子どもに伝える

私(右)、父(中央)長女(左)親子3代で音頭取りです。昨年夏、長女は長野市との二拠点居住でリモートワークをしつつ、ふるさと新野に戻ってきました。他にも、「祭りがしたいから」と新野に戻ってくる20代の若者が増えています。かつて子ども芸能教室で学び、雪祭りや盆踊りに親しんできた子どもたちです。祭りによるふるさとへの所属感が、人生に意味を与え、何が大切か、何を守るべきか、そしてどんな生き方が自分にとって幸せか。自分の価値観で人生を決められる若者が、祭りに取り組むことで育っていると感じています。



南信州新野高原の情報発信サイト「DeepJapan 新野」

<https://deepjapan-niino.info/>

撮影：金田 誠 (Makoto Kanada)

https://www.instagram.com/kanada.makoto_ig/